

1 2 3 4 5 6

20

5 6 7 8 9

10

7

6

5

4

3

2

JAPAN

TANIMA

美濃八丈綺談
舊衣

大嶋

貳

特別
^13
3646
2



へ13
3645
2

美濃舊衣八丈綺談卷之二

東都曲亭馬琴編演

乾為天

不破の関

不破の関ハ美濃國不破の郡もありしへばすとぞ関の名はゆびる。との関
天武天皇の白鳳二年より立とせり。東山道の杆城うども。後より立て
荒るるや。歌よりとぞ。照月の板庇と偏り。紙拂り。頬靡既小年うそ。
今その蹟へ定くうれど。関がゑ。大関村。関の藤川。小門うど。關城にて名を
ゆふ里ハみよ。被關の餘波う。とひ。尾花才化が。店祇と。小ト。う。關の
小門の東う。と。關が。更遠く。と。又芦月一角が奴隸諸平が。舊里。關。小門
の西。みよ。白木と唱。瘦村う。却説諸平ハ。ゆ。比。合。波林のせ。生。う。と
諦みと。被役。彼が守より賜。金と輒く奪ひ。う。と。金と。金と。

二十五金の本帳と獲り。人馬をもとなく間道より。七里道を直と走り。白木村へゆき。里の戸毎に持り下す。別後の恙なれと祝し。祝はれ。此度より。主よ。ちくまく。俄頃。故郷へりし。守り。金を賜る。縁由え告ち。うち。人もうなづき。宿代。拂ひて。膳紙容る。裏より。親方。まく。果敢。うれ。親族へ。うけ。ど。田舎人の憑く。と。祝を。祝を。の。裏より。さへ。諸平の人。うさう。田園。とりて。ぬ。生活の便。若。何と欲得。となり。ひたすら。ふど。丸へ。美濃の尾山。極ら。木と伐生。と。便宜き。件の金。缺。一。座の檜山。と。購つ。喚声。と。妻と娶。と。と。と。クシ。と。一。世。死。渡す。女房。喚声。ハ帰。と。その月。より。有。次。年の五月五日。良人。と。昏餉。と。饋。と。因。果。塚。の。わ。と。り。死。過。と。と。と。十月。満。ざる。この時。猛。産。の。氣。つ。れて。宿所。へ。ゆ。と。う。と。と。件。の。塚。と。産室。ゆ。

女子。どう。う。り。り。縛。と。る。比。良。人。諸。平。へ。折。も。と。こ。く。あ。く。且。警。め。飲。ひ。く。ぬ。抱。り。と。よ。齊。一。山。神。と。る。樵。夫。少。翁。が。集合。こう。と。翁。相。禪。は。く。女房。と。横。よ。昇。り。児。と。懷。か。く。宿所。へ。ゆ。八。月。子。う。と。と。健。か。く。その。面。朝。親。え。尚。ぞ。目。鼻。ぐ。ら。愛。か。て。曹。い。と。清。す。う。と。ど。づ。か。る。故。老。右。冠。卷。と。楚。と。握。り。く。と。そ。そ。そ。ど。も。終。く。披。む。少。よ。か。か。ん。色。の。と。な。う。ど。女房。喚。声。へ。と。よ。か。よ。臨。産。の。疲。労。肥。ざ。ぞ。病。と。百。日。だ。う。り。ふ。く。終。よ。死。く。え。ふ。ワ。く。と。そ。び。古。す。り。五月。五。日。よ。生。る。子。必。家。よ。宗。ると。く。漢。人。と。禪。の。あ。しが。天。文。の。比。ま。ぐ。ハ。こ。う。邦。ふ。じ。ス。こ。の。う。り。殊。と。メ。曰。木。の。一。村。と。う。と。お。禪。と。甚。く。富。る。み。の。ひ。そ。の。子。と。り。く。假。よ。他。人。よ。養。せ。已。或。異。姓。を。冒。せ。う。と。食。を。み。ふ。ち。お。び。く。よ。そ。の。子。紙。棄。る。と。又。え。う。諸。平。の。女。児。が。遊。ぶ。い。世。よ。忌。端午。の。朝。う。と。び。彼。を。や。母。を。崇。え。と。ち。よ。よ。と。怪。る。

生とより日ごろ狩りと右の巻と
被くとも。そふせん物もれぬ。母の
タリ嬰兒と。ほほを争ひて。不夜
市あると。と。久後。と。憑く。

餓く死る。と。俟ん。よ。棄す。と。切りひ決て。
一々妾兒と。懷。抱。彼此。徘徊
そろ。村落。富豪。罕。む。こ。と。等
し。わらの。と。う。と。棄。子。よ。と。門。戒
き。流石。親の。情。少。く。豈。首。せ。ほ。
彼。首。と。迷。ふ。ころ。紙。と。め。あ。く。ぬ。
大。閑。村。の。教。い。あ。と。ど。寢。よ。そ。棄。す。て



遙。よ。園。の。小。川。う。塔。橋。紙。う。り。う。り。
う。子。と。あ。ぐ。搖。揚。つ。鼓。ほ。け。く。と。
野。千。玉。の。夜。の。川。波。い。と。ま。れ。浮。世。秋。の
も。う。風。よ。振。と。と。う。れ。ち。の。扇。尾。花。
門。と。き。
門。よ。も。う。り。う。り。當。下。諸。平。へ。つ。ぐ。と。
才。化。が。檐。と。瞻。仰。く。忽。地。よ。と。す。す。
この妙。豫。く。ゆ。う。こ。が。故。主。の。同。僚。に。
尾。花。氏。の。新。宅。う。り。彼。人。ハ。殊。え。す。
ち。ん。ち。が。ス。と。愛。う。じ。よ。しき。う。う。故。者。
退。糧。ち。く。困。居。の。人。と。か。り。の。屋。と。
第一。の。出。取。う。牧。村。ゆ。の。脊。う。山。云。

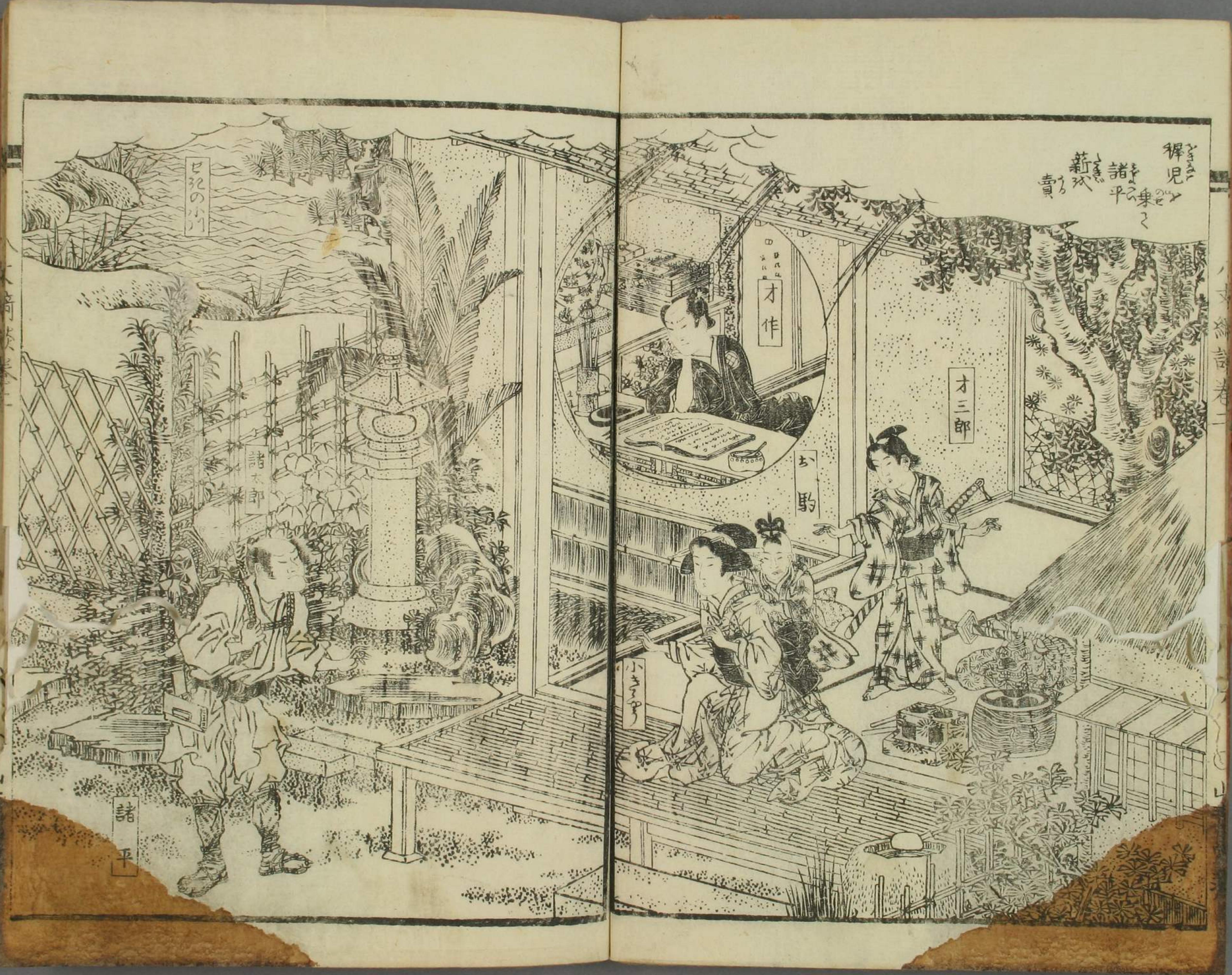
今こそあり後ひろかくまことあわせぐ。そとすゞよまうとて生涯
かくをあらぶとく。夜食より缺く人ふあらず。男児ひとりありよろせり。
女子へやづらうとん。彼此と擇んより。女児がめよ庇蔭を憲む。この人よ
まともぬ。とかひし決一悪因縁。母が乳をあく護育。ものがあくと
故主う。一角が仇とあらずね。果敢うをのうとれども。背負あくう
准儀の畚と密たよ釋ひうし。音少や疲勞久ん。と睡する妻兒を。
警るうと懐より。やまと生とく畚よ盛す。檐の枱よ掛く。うご子うぐの
泊垣夜あづよせをゆり候ぐ。親の泪の打水よ。濡らを袂のうとすれ
曉の風八声の鶴と。共ひよあづく妻兒と。もし捨てぞかくりける。かく
諸平の四月が済よ。妻と喪ひ子と棄て。憂とやくせんかすもとを。
女見ぐり紙人同毎よ。明白よと告げて。彼の物怪の幸よ。愚良んとより
のあくよ。近江のうと遣へ。とひひうちて。世人へ志と。里に流俗うと
こゑ外を。又嫁始くるあり。諸平の明年。因といふ後妻と娶りく
より。三年といふ春の比。男四、紙産せよけと。どう紙諸太郎と名づく。
あくよその年の雷鳴月よ。山洪水ひく生く。白木の一郵大く。屋根腰と
洗をして小どを余危と。さてうれよ。諸平が宿所へ止紙うきく。殊よ低き
如うとく。つぶく脱ぐ。あくよ紙遙てぬよく抱き。夫婦紙山よ逃登りく。
辛あく恙なけれど。家へ蹠うと流さと。とく。物ひとく残るべくもあく。
稽某山よりうり比。二十五金の本錢あり。此彼よ用ひよけと。うと十二金
餘の貯祿あくよ紙。ことえくよか。流さと。本仰。猿の枝と失ひ澤渡。蟹の
穴と毀してることちく。進退とくよ究す。輪廻夜報のとく。かうあくべく
とうがう。足るとあくぬ。公より。曩よ襍々と紙。奪ひとく。奪ひひとく。うと
うと金の数

そがまく此度失ひ。執事のゆきとどろ欽ごとすりあへざりけり。と
かづれくはうきくよ。ちじ 悔しくもやどと今さうよとぐれりのう。そ
よりかよくうりく。木と伐草刈ても。少念仏へ唱せどと貪ること無
休やとあらむ。とくしてありしれよ。形ぞうりなり白屋延徳うきて。僅
月日送る後。次の年の夏の比。女房岡へ馬よ柴を負ふとて。膝頭を
蹴折り。刺肩骨と踝蹠をく。そより生涯半身遂び。此彼の療用よ。いよ
生活の便着を失ひ衣食の綱と懸つる。櫛山を人よ售す。ひと昔よいと
御紀本筋とくつむとあへ移べ人の為よ枝と折或へ駄の薪と脊
負ひ。閑の小川从西東へ今須の驛野上の里。垂井藍川乃江とすまく。
日毎よこと紙賣あくよ。苗ちどる妻ハ廢人なり。起居も夫の羽異ふ
る。石僧よむ。紀のよ。稚児とうちまくせんへいと便うれ西あれ。しげ。

薪の上よ刺衣と布く。今茲りうく小ニアうる。猪太郎を拾う。生立よ
かへく。その故を問。そのゆきとゆく。人よひと紙憐く。薪紙買ひのいと
えう。諸平ひこくよちくと稚児が本筋よすりく。辛な世うど。蠶蠹乃
浦うなくよ朝メの煙の價を獲うりけり。毛より先尾花才作へ。ひもかけぞ
ひ門へ。要児と捨トシ。うちとちくと。その曉よ。とりへとく。又立
女子う。すまく。もう三日。今月百日あすりよ。やめりやせん乳齋のいと愛
う。膚へ毛紙延うる。ゆりのくかる。見と。ひつともと葉うらう。養育せんや
痛ま。と正首よ。夫婦多居膳よ置。多く愍む。うらう。養育せんや
う。よ。う。子才三郎へ。毛四才よ。やめ。乳齋が乳乃まざ
涸ね。養す。よ。やほりあ。この子がく。小桔校が乳乃まざ
て。とく。結朝締の封紙。里正よ。告。毛。明。よ。養ひう。毛が葉う。

うちとぞ。里きう。白衣の裾よ牧駒とほくらぬ。どぞくらまくじう。そのを
すくも駒とゆびる。足下くどう。下を小桔梗が乳とりくこと承す。故より右れど。
ちひの外よく肥だらむ。ひと愛こあくうけと。づつやす故より左れど。
極まる隨そく被くと。こと左えよこそ棄らじけん。とちへ不伎いやす。
ありとあぐき医療を竭し。或へ神仏へ立願。祈りども驗もかくて。五年
あまく。死ゆる様よ掌こそ人をなす。容止きよと。愛敬づれく。乞ふ
怜俐えゆく。恩愛実の子よ。才化夫婦ハ挿ひの花掌中に珠と慈愛。
ロシヒトかくと。か駒が右手の披く。よあらん。生育後。才三郎が
婦とよさざ。若く。拂ひ。ひと似つも志を夫婦さうんと。そのの紙のと
希。親のところへあとうね。と才三郎ハ仙経より。ものとめが友垣と待ぶ。
縁一紙も。めめ。送は。耽がちとせてや。か駒も亦才三郎と。と睡く。おび
因りと。うやく告とあくせ給。年來ようりしう。さそく大きくなり
ゆく。外えくらと。お手と。とおわく。ゆびへじと。下を。新経。陳
より。價と殊よ廉り。才化夫婦ハこの余賣紙。ゆびで。か駒が親とあらぶ。
年來妻の難病よ困。果禪曰く。生活よあるゆゑ。と。人もいひ彼も。いへ
いと痛す。くちひつ。とろく。お紙食く。才三郎。駒が玩物。あくと。紙
乞集て。諸太郎。と。せり。才三郎。諸平。ちくら。今。と。よ。お主と。ゆるの。も。う。と。
桑く花。女児が。面。雪の中。う。姫小松。雪。朝の瞿粟。すこ。愛。お
女の童よ。う。ゆ。う。と。と。の。そ。の。と。と。へ。じ。お紙。廻く。と。お。右の
あの人。う。と。と。の。と。と。の。と。と。の。と。と。の。

ウ。か。ほ。宿。白木。う。諸平。と。お。薪。薪。脊。員。ひ。諸太郎。さく。え。か。紙。衆。そ。
尾花。門。過。ゆ。ぞ。墨裏。桑葉。前妻の女。归。が。ゆ。く。匿。今。の。女房
どり。
因りと。うやく。告とあく。せ。給。年來。よ。う。り。しう。さそく。大。き。な。り
ゆく。外。え。く。ら。と。お。手。と。と。お。わ。く。ゆ。び。へ。じ。と。下。を。新。経。陳
より。價。と。殊。よ。廉。り。才。化。夫。婦。ハ。こ。の。余。賣。紙。ゆ。び。で。か。駒。が。親。と。あ。ら。ぶ。
年。來。妻。の。難。病。よ。困。果。禪。曰。く。生。活。よ。あ。る。ゆ。ゑ。と。人。も。い。ひ。彼。も。い。へ。
い。と。痛。す。く。ち。ひ。つ。と。ろ。く。お。紙。食。く。才。三。郎。駒。が。玩。物。ひ。あ。く。と。紙
乞。集。て。諸。太。郎。と。と。せ。り。才。三。郎。諸。平。ち。く。ら。今。と。よ。お。主。と。ゆ。る。の。も。う。と。
桑。く。花。女。児。が。面。雪。中。う。姫。小。松。雪。朝。の。瞿。粟。す。こ。愛。お
女の。童。よ。う。ゆ。う。と。と。の。と。と。の。と。と。の。と。と。の。



匿。そべくむすびのうがつ後。猪平の廿月一角。田禄あるめにかどと
才化も小桔杖も。その文紙もとて。終くあらむ。すもよつきとるよほり。せよ
舊命のものとく。憐むて深きつくり。かく春から年々きて。天水も
もや十一年より。時よ才三郎十二歳。駒はその年十歳と。此彼共
愛敬づにて。月うつぶ五日の影。花うつぶ梢の含後のき香ち量らむ。人を
誓親を達る。才三郎一對の雛人形より。すと。揮抜びの歎とも。君
已が使よ。女が娘よ。誰海ねど高安の面。表うつと筒井筒あひれ縁」と
おひ汲む。二親へ豫くより。玉の罐ふ金の綾只。そのまゝ小結じそろく。また
むどうようさんと。とふよつりと。まくせぬり。が駒が右の巻へ世の支指と
ひりあり。又龜をと。ひりあり。ひと。そへ生得一蹄へなり。が駒が巻へさる
類。まあと。人をなまく生き延びゆく。極り。その披ざる。とくへゆる。と
才化。医师よ。問奇。其葉紙。年來。御成蟬。その駒。が右の巻へ世の支指と
きし捨げて。有。日。小桔杖。と。對く。す。大約四の生と。と。その文紙
も。よく。と。うれ。數百年紙。歴る。墳の壤。と。りく。焼ふと。紀。立地。は效
あうと。唐の書藉。み。記。と。が。圓修。といふと。う。紙。巻。と。ること。疎。見。
まふ。是つ。の。記。不。う。既。よ。この。奇病。あ。と。その。方。う。と。と。い。い。と。
幸。う。う。當。圓。ふ。美濃。の。尾。山。の。古墳。あり。道。の。徑。と。き。う。後。圓。の
と。と。く。被。射。よ。射。射。被。塚。の。壤。と。取。ア。く。そ。の。效。驗。と。試。え。割。新。の。准。海
あ。と。と。と。小桔杖。沈吟。と。そ。ふ。と。と。と。と。と。因。果。塚。へ。下。下。下。
塚。の。鬼。の。祟。あ。り。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
被。墳。の。祈。子。か。と。
執。ま。と。

この文を以て紙棟（のきあわ）とす。そのより止やと釋れ比世のわざ（わざ）とゆふとある。
これを魔所（まゝよ）あらざとども斧（のこ）もあらずぬ深山（ふかや）。惡夷（よし）つま（ま）詫（なが）むぞ。
人もかる古墳へ近づれあはしく危し。みぐトノ深念あり。とくとゆゆめぞ。
才作（おとく）とうち笑ひ奇（おき）好む俗の常情。樵夫、牧童ホガ首尾整（そなへい）。
怪被（さしひき）よせ懼（おそれ）。すうたと紙宣（のりあらわし）ふる。むん才ハ是武士の女（め）。まの妻（め）
さくまご。件の尾（おひ）樹木あくも。里（さと）を去と遠（とほ）と。或ハみの、中山と唱つ。
雞壠（けいのき）の山（さん）鄰（となり）。ね山見（み）へ一日も。下上せざるとも。晴る日少くとす。眼
あり。
前よ足ゆりぬ。孤（こ）うでへひそくとあの人（ひと）やとくちひく。とくよ再び
棟（のき）ふく。甲夜（よみ）割籠（わりろう）と調（とし）ひ。才作（おとく）結旦八声の鶴（つる）とゆうたふ起出（おきしゆ）
方（かた）からく折拾（きりあつ）。腰（こし）兩口の刀（と）と降（おろ）きよ一挺の鉢金（はちきん）。オ笠（かさ）とく載（の）る。
坂橋（さかはし）ト北（きた）とまく。野（の）城里（じゆうり）を過（く）。昂（のぞ）些（すこ）一頃（とき）く比美港（ひみこう）の尾（おひ）と攀
登（のぼ）。時（とき）へ今十月の初旬（はじぎゅう）。さのよの時雨霄（あめのぞら）。古骨（こつこつ）と深て動
くも。杖（あしら）とく。面孤（おもてこ）う山風（さんふう）。御文（ごぶん）よ冷（ひや）きとどく。背（せき）くまづく行旅（りゆう）
数町（いくわんちゆう）。墳（ふん）のわたりよあくとく。直下（一直下）とば黄葉（こうや）。根（ね）枯（か）りく。荷（に）青柳（せいりゆう）と複不^{（ふくふ}は)足（あつ）。
草の裡（よなか）。蕭（あきら）白楊（しらえ）。つじう枯（か）りく。荷（に）青柳（せいりゆう）と複不^{（ふくふ}は)足（あつ）。
時々寒煙前漢（まへかん）と埋（う）。山氣丘壠（さんききうりょう）と掩（おお）。悲心うる生と死と。貴賤亡滅の人々。
北邙千秋の墓（（ほくまや）。この墳（ふん）うへりふく。柏芭寺（（はいじ））の蹟（（せき））ある。づれしの墳
うへりふく。後の奸淫と讐怨とづれ因果の道理。眼前（まへまへ）と。ここをハ埋
き。ひと清（きよ）めと。ひとどもつ古墳の前よ立後よ掩（おお）。引能（ひのう）と
杖（あしら）と。田（たん）と。嗟嘆（あわう）と。かくゆづれと。あへざれと。と墳（（ふん））
登（のぼ）と。會（あつ）と。敵（（てき））と。直（（ただ））。再び三度と。掘起（（くわき））と。壤（（じょう））と。も小墳転（（てん））。俄頃（（わかれう））

山鳴ア風暴アシテ砂を張一樹と倒。あ凄ア光景。才化ア且怪ア且駭
アシテアシテアシテ。食アシテ敵アシテ草埋アシテ捐衝アシテ膝アシテアシテ。
石碎アシテ塹アシテアシテ墳崩アシテ。翁アシテ忽然アシテ陷アシテ士
中アシテ入アシテ一丈アシテ。隠アシテ空アシテ。蓋アシテ黒日ア別アシテ幸アシテ
アシテ。死アシテ阿撞アシテ。アシテ著アシテ死木の根アシテ。足死掛アシテ碑モアシテ人跡绝アシテ
深山アシテ人アシテ死アシテ孰アシテ死アシテ。アシテの儘アシテ人アシテ死アシテ。瘦乃アシテ難一罐アシテ
死アシテ。弥勒の出世アシテ。アシテ死アシテ。人揚アシテ死アシテ。アシテ死アシテ。アシテ死アシテ。
千々小心アシテ苦アシテ。後悔アシテ。アシテ死アシテ。アシテ死アシテ。アシテ死アシテ。
アシテ後アシテ。スゼンアシテヤアシテ。アシテ死アシテ。アシテ死アシテ。アシテ死アシテ。
吹アシテ物アシテ。才化アシテ。アシテ死アシテ。心駭アシテ。刀アシテ。鞘アシテ。刀アシテ。鞘アシテ。
逃アシテ。アシテ。音アシテ。次アシテ。忽地霧アシテ。晴アシテ。如アシテ。アシテ左アシテ。土アシテ。

蜘蛛アリ。右アリ。青草蛇アリ。その状ル常アシテ。毒蛇アシテ。眼角アシテ。鱗アシテ。
光晃アシテ。月アシテ。載アシテ。彼アシテ。蜘蛛アシテ。肚凹アシテ。緑虫アシテ。網アシテ。皂アシテ。
鳥賊アシテ。此彼アシテ。左アシテ。眼アシテ。瞪アシテ。舌死アシテ。才化アシテ。蘿蔓アシテ。毫アシテ。
毫アシテ。黄銀亂死アシテ。網アシテ。縛アシテ。刺殺アシテ。たりアシテ。刃アシテ。抜アシテ。
連アシテ。才化アシテ。右アシテ。蛇アシテ。腮アシテ。楚アシテ。捉左アシテ。蜘蛛アシテ。眞中アシテ。小腋アシテ。
縛アシテ。動セアシテ。口アシテ。声アシテ。揚喧アシテ。叫アシテ。わアシテ。あり。諸事アシテ。日人アシテ。催アシテ。
木アシテ。代人アシテ。只アシテ。尾山アシテ。奥アシテ。へアシテ。よアシテ。の神アシテ。異暴アシテ。とアシテ。
付人アシテ。震動アシテ。杪アシテ。拂アシテ。風アシテ。よアシテ。かアシテ。そアシテ。うアシテ。死景アシテ。がアシテ。
斧アシテ。もアシテ。わアシテ。紙アシテ。様アシテ。やアシテ。小鳥アシテ。とアシテ。怪アシテ。
べアシテ。數百年。白骨黄土アシテ。埋アシテ。趾アシテ。迷アシテ。古墳アシテ。葬アシテ。龍アシテ。
蛇アシテ。完アシテ。異アシテ。どアシテ。行アシテ。も骨疎アシテ。も骨疎アシテ。死アシテ。葬アシテ。



物と挑む。うそふや。喧き叫ぶ声を。こゝそとつゝよとまもく。あやみ。
どさあかうなる。そり取れど。底あくしく黒白。どころど。縁田を定め。ね。
人わく穴へ墜る。疑ひぬ。故ひゆ。と。縁故を。ゆめ。わや。と。ちかじ。
上より。あがく。ゆびけく。と。よ人あくす。紙あす。と。脣よ。毛する。釣索。
坎の中へ。手。保たぬ。と。この索よ。う思ひ。う思ひ。と。叫ぶ。才。机。左右の
み。毒蛇と蜘蛛と挂つ。十の指よ。いまうけ。と。援る人のありと。素を。元
索ふ。う思ひ。と。かうう。諸平へ頻。す。小焦燥。と。喧夫。の。じ。と。呟だつ。
等く引く。釣索。と。海。と。よく。才。作。が。帶の。結目。引。う。う。と。と。と。
力と極め。倒。と。る。樹。と。巻。と。せ。と。く。衛。と。引。く。強。と。才。作。が。為。と。傷。く。と。毒
蛇。と。蜘蛛。と。左。右。の。腋。小。楚。と。抱。き。と。る。儘。穴。と。せ。と。と。と。勿。地。と
氣。修。し。ぶ。諸。平。と。慌。忙。と。ゆ。び。後。と。と。く。そ。の。人。と。も。と。め。と。と。と。が。り。ひ
うり。うれ。うのが。花主の尾花氏。へ。と。く。と。う。と。再び。敵。死。石。傷。と。掬。ひ。顔。
吹。き。と。る。と。も。勦。る。ゆ。才。作。へ。す。と。ふ。と。よ。と。く。と。う。と。と。太。や。う。
息。張。つ。死。核。ひ。と。と。え。く。と。う。豫。く。相。識。る。柴。賣。う。と。う。と。の。吹。び。も。下。れ
ま。く。感。疚。と。お。ひ。ゆ。と。抑。和。主。ハ。り。よ。と。く。と。が。穿。へ。隣。く。死。と。と。も。あ。う。
助。り。あ。ひ。こ。の。再。生。化。恩。惠。ふ。こ。そ。といふ。諸。平。へ。貌。改。め。折。り。ゆ。へ。と。と。く。
け。い。人の。宿。り。と。と。の。山。の。本。伐。る。種。は。俄。頃。は。風。暴。と。地。震。て。須。臾。の。夜。と
と。う。が。ゆ。ぐ。く。と。死。る。と。く。と。と。あ。く。と。う。と。と。花。主。と。敵。ひ。ま。と。と。う。と。う。
え。方。へ。亦。行。ホ。の。友。よ。と。の。穴。へ。墜。り。ひ。と。向。り。と。く。尾。花。へ
今。と。と。よ。禪。の。執。匪。が。く。と。と。の。本。伐。る。種。は。俄。頃。は。風。暴。と。地。震。て。須。臾。の。夜。と
崩。く。と。毒。蛇。土。蜘。蛛。の。く。と。と。首。尾。と。税。あ。と。と。と。と。と。諸。平。へ。頻。よ。敵。と。嘆。い。
原。来。と。の。人。と。駒。が。右。の。龜。と。医。療。を。尽。セ。と。禪。一。倦。と。深。山。よ。と。ア。灵。

あり墳と。もうつもじ直死祀る。才と殺さんとつまんへ。ひが姫のわよ
そひぶことスもトモどくと死助く。寒よ不思議の因縁。どくろよゑ。
ほゆのつぞ。数回才化が悪かれて祝へ。まともととの毒虫。ふうと
脱ぬく。物と被だく生すひ。と眉うち聲く。同くふぞ。才化とくふせつを。
猛々左右舞ひうるよ。蜘蛛と毒蛇へあづむく。周一尺四五する。いとさう
くる硯あり。又數貫文の古瓶あり。硯へその形圓く。中些細りある。
説ふるよりて。鶴と。緑青よ文字と埋め。繪とぐく枯果と。もと。説固りく
教書。才化とて残る。小勝残拍く驚嘆。硯へむく行平乃碑妻事
きり。稻木山とくせよ。柏芒寺の什物うるべ。傍人。柏芒寺の
午句坊不破の媚婦。谷折とやうんよ姦通。その子木二郎が殺せり。お新も
ちがく自害せり。被成主懲の惡僧も。その哀よるはざり。母子の死體と地よ
沈め。不愛惜少や。店がりて棺木山の硯と取く。地下水よ。投へり。説八
貫百丈ありしと。悉要胥よ。若ち。水底へ沈み。バ麓の里人。崇武。ちこき。
法無理。塚を祭因果の名と。負せり。今よ至く數百年右蹟。と。示
迷り。一朝夕。墳崩れ。硯と殊と人間よ。燐く。びかと天數うつしかば
鬼灵消散。今。障礙ある。燐と殊と人間よ。燐く。びかと天數うつしかば
埋もく。その精蜘蛛の形と。又。毒蛇の形。よ。え。と。ひ
合もく。この硯は圓く。その腹殊よ。脹大。よ。と。蜘蛛の形。よ。え。と。ひ
因。もう果あり。怪死よ。似く。怪むよ。足。よ。ぎ。で。や。硯。よ。か。と。ひ
諸平へ。や。や。曉り。よ。と。奇異のひ。よ。燐と石像と。掏り。件の
硯紙は。よ。ぶ。果して。背よ。文字顯。立。よ。う。い。よ。美の。山の。筆。よ。あ。つ。

まつて坐り。今うへあん行平と薦つて。鮮やかに読り、原來辯ひ
うれのうへく。才化は衣袖は載く。豪傑もと大々こなす。諸平ニ
現む意氣ともぞ。件の様と打剥し。うち剥りて数五枚。のみ數八貫百文あり。
才化は又こよみがて。和主折よくて。よもよあく。ごとく死故へ。よもよざりせばらか
骨へこゑ空よ。朽く。因果の糸糸まとべし。再生の恩あまう。あまう。さと當座
おも附がヒ。コトとく。現と變くるのこ。み縫ハ悉。和主とろく。朝々の煙の價は
あまく。とつとく。諸平ハ忽地。溢る。おもむく。笑方向。おもむく。おもむく。おもむく。
お主すく。おもむく。かたぐりのうき。おもむく。おもむく。附が未だ死。
お主も辛く。被だ。場あひく。悉某よ。おもむく。そそや。おもむく。おもむく。
おもむく。とく。才化は衣掉り。シテ。用居の内。おもむく。とも。衣食おもむく。おもむく。
お主ハ妻の長死病者。牌限さん。おもむく。難苦おもむく。こと。とちりへゆう。
漏退薛壻へよよぶし。但の墳の崩く。おもむく。墳する。おもむく。入へ。おもむく。奇珍
傳へく。浮説怪談喋く。おもむく。名をうえへる。おもむく。發^カ
とつとつ。人よ告ひととあらう。おもむく。おもむく。と信ふ。おもむく。税渝せ
うちと。宣ふ所その理。おもむく。おもむく。おもむく。おもむく。おもむく。おもむく。おもむく。
おもむく。命よあらひ。おもむく。と。おもむく。と。おもむく。と。おもむく。と。おもむく。と。おもむく。
眼く。件の疾とか。累。おもむく。おもむく。おもむく。おもむく。おもむく。おもむく。おもむく。おもむく。
塊と。被ふ。包ふ。要月よ。おもむく。おもむく。おもむく。おもむく。おもむく。おもむく。おもむく。おもむく。
化ハ園の小川。諸平ハ白木へ。おもむく。さる。おもむく。因果塚。おもむく。崩て。おもむく。おもむく。
おもむく。おもむく。麓。おもむく。里。おもむく。彼此。おもむく。風声。おもむく。おもむく。おもむく。
人。おもむく。おもむく。おもむく。おもむく。おもむく。おもむく。おもむく。おもむく。おもむく。
都語より。七十五日。件の噂へて。止く。アヌヤ。アヌヤ。アヌヤ。

尾山の輿へ昔より近郷の茶鬼所うどん。牛向坊が安らぎ。その名はまこと

ますとあくがりぬ。

兎為澤 不破の園ノ下

尾花才作ハその夜アリ。恙ヨリ宿所へアリ。小桔梗才三郎ホム因果
塚の崩れ事の一條成院ホドヒ。ゆくろくを世ヨ四丁ナリ。硯ミ。獲シテ
とく被包ミ。とく被死。才三郎トモ。ゆく見セテ。ハ妻もその子モト怪死
物ガ。うり。耳疾側て。ゆくと毎ニ驚嘆。恙ヨリ。と教び。小桔梗ハ
才三郎。と想。承ヨリ。良人。と對ひ。風流乃ト。ろき。一ませバ。かる古物。
愛のハ。と。りそ。と。く。ま。と。不。あ。ト。後。ど。む。一。あ。う。極。忌。惡。僧。が。今。被
う。こ。れ。ま。ぐ。い。と。惜。ミ。被。と。獲。く。人。よ。そ。ト。セ。ス。そ。の。硯。ビ。ズ。ア。ト。く。
家。の。宝。ト。う。あ。る。つ。ぐ。う。崇。ノ。タ。れ。と。ゆ。ト。く。壇。の。壇。と。う。す。め。じ。く。
空。へ。掛。入。ヒ。き。よ。ま。と。と。か。す。ト。う。ん。ア。る。ゆ。忌。マ。チ。キ。ガ。モ。と。正。首。ヨ
禁。ホ。ミ。才。作。ゆ。く。冷。笑。ひ。臉。紅。婦。入。の。ど。ろ。コ。ム。あ。う。や。く。モ。理。ハ。ラ。レ。シ。
既。ヨ。數。百。の。年。経。歴。ア。自。才。作。と。山。崩。レ。ト。交。メ。ヨ。出。一。硯。ハ。天。の。錫。ミ。ト。モ。云
夢。モ。と。ア。で。死。リ。の。が。ア。陰。鬼。攸。と。失。ヒ。く。惡。靈。消。散。モ。ト。ア。人。エ。
今。又。行。の。崇。ア。ぶ。れ。こ。と。ス。レ。ン。才。作。が。走。ル。と。な。ト。モ。と。拒。ハ。辭。モ。ア。ト。サ。ユ。
日。來。又。似。ハ。才。作。只。見。う。の。硯。と。惜。ハ。良。人。の。こ。ろ。成。吸。ハ。後。小。膳。承。モ。ト。
か。ま。で。よ。愛。キ。と。又。ま。う。ほ。ん。ハ。恐。多。と。ぞ。モ。む。守。ゆ。と。の。沙。汰。ア。リ。
増。シ。被。死。く。そ。の。硯。シ。と。仰。一。紙。ア。ハ。不。後。ト。そ。ま。う。の。才。作。
沙。汰。止。ぬ。と。禪。だ。と。さ。使。つ。る。と。の。行。レ。ヒ。才。作。と。く。硯。と。も。す。小。守。進。セ
あ。ひ。う。ダ。オ。三。郎。が。後。ミ。す。ぐ。家。の。手。成。ま。と。よ。あ。く。ん。の。守。人。モ。報。誓。モ。

秘の塚の鬼の祟るゝとを。親護と申すト。どりかせと裏も頭をうし掉
えり。或が異見へ常言より。女人をしてとも。とバ牛售帳の類なり。
繼とみ覗のつ。むくその神休あるとばとく。そんれ。男が権を日とうち
使ひるのとなく。ひと是へてやれり。ゆこそ。ある。よ今故も。さと。成
守へ進へてせふ。孰う。謂ふ。といひだる。死人の妬。よ。俸禄戒辭
仕を致。弓箭被捨。十餘年。がむく。やまく。世絶。よ。ふ。又改めて。榮利武
猿。うぶ子のあよ。付体求。足る。と。戒も。富。と。いふ。とも。ゆ。富む。
官途へ。ゆ。心。う。た。た。の。う。と。ど。仕人。とも。ゆ。づ。と。ど。そ。ふ。子。ど。ゆ。ら。ふ
人。と。ゆ。後。ち。が。ま。ゆ。も。ぐ。を。オ三郎。も。余。こ。ろ。る。よ。と。敷園。ゆ。と。塊
喻。も。と。物。が。り。と。る。自。擣。憐。慢。の。覗。より。後。終。よ。筆。希。毛。危。く。も。ま。と。果
が。れ。枉。屈。の。か。も。お。う。か。と。か。と。ぬ。妻。ひ。と。よ。く。り。ふ。が。ひ。う。く。強。て。も
漣。ゆ。ご。り。う。か。く。そ。の。夜。深。く。と。く。ふ。そ。ぶ。ま。親。子。丈。房。入。く。つ。桔。豆
才。伊。ハ。因。果。塚。の。壙。を。あ。と。く。が。駒。が。右。の。春。戒。洗。ふ。よ。奇。な。う。う。襪。襪。中
より。極。く。あ。る。嘗。る。と。い。ど。も。一。夜。の。東。風。南。枝。小。佛。ア。リ。く。梅。ま。ぐ。一。巻
ゆ。う。が。如。忽。然。と。重。戒。披。け。裏。より。而。の。虫。出。う。る。そ。の。形。大。き。や。する。ふ。
蟬。又。似。く。き。青。く。少。ま。蒲。の。き。く。形。蝦。子。又。似。く。小。桔。校。ホ。ヘ。金。戒
ア。リ。且。詫。び。且。怪。之。彼。ト。と。り。禮。よ。ま。オ三郎。ハ。そ。の。虫。と。捕。人。と。ま。と。禰。と
先。で。大。ミ。リ。ハ。か。駒。が。方。へ。オ三郎。が。肩。戒。戒。越。て。遂。又。見。え。金。と。往。方。も
あ。く。お。う。り。ゆ。戒。驅。寄。少。く。立。強。い。才。化。急。よ。や。禁。而。子。ど。草。益
ふ。犯。と。る。せ。そ。か。駒。が。持。の。節。伸。て。人。う。き。こ。よ。が。り。と。る。ふ。そ。の。掌。よ。く。の。る
虫。と。あ。そ。り。求。て。何。よ。み。せ。ん。大。病。人の。病。よ。ト。う。く。奇。蟲。戒。生。び。く。と。あ。り。
癡。石。白。虫。勞。虫。み。じ。と。み。え。人。の。病。ひ。ま。と。が。お。駒。が。掌。ト。り。そ。く。る。虫。も

持の節成伸技でぬ病むりけん。絶てあやむとゆへあへど、と打捨く
 ちひねるといふ。の藏る徳へ怪と、怪とやら氣をなげき。妻もこの子も
 感服。疑へ解るのみ。後よりひあへ玉生。不被虫になる事無トシ。
 衣と遅すとせよ。かゝれ。寔も蜻蛉。牛勾坊が生と換ひ。至も
 又そのひとろなりと。才能だよとあとがり。する程。尾花夫婦。
 ち駒が右の開拓。その放びよ。と。彼が二八ふかうん。ころ方
 三郎。妻只ん。とく。わやそのみ。明く地。子ども。うよひあくせ。そより
 あく小桔梗。日毎。よち駒。よ。おも。こせ。又。縫刺の。武教え。糸竹の枝
 まで。と。海。そと。の。とく。去。歳。と。暮。す。今年。と。あ。せ。お駒。容止。へ。ふ
 ま。沈魚落。月。蓋。月。閉。花。と。唐人。の。ひえ。も。と。と。と。わ。り。ふ。少。女。
 なり。ぬ。三十。あまり。三四。より。生。じ。くろ。つくま。ふ。迷。よ。慟。く。才。三。郎。と。

太
寶
通
元
乾
永
仙
十
百
通
元
乾
永
仙
十

圖
說

青
畧
蚊

青
蚊

青蚊形

長其子如蟬子
着草葉上一說

形如蠍、青色有

先生於池澤多集
蒲葉上故名蒲蠍

以母血塗。十一錢。以子血塗。十一錢。
留子用母。留母用子。皆自還誠仙術也。說

見淮南子萬畢術。十室搜神記。李珣異物
志。今据本草圖經以潤色之。



もとらぬ。せばねども、ところの中へ嫁へて、結びて、とて、山ゆ
快ある。余様。又春をまちつと親染ます。深うき。某下某生再現
白木の諸平へもくろむと尾ふとく。才作と抜ひーと死八曾あまもの
古賀と獲とより。とて紙本賀とて薪戒賣る。日毎五倍十億。
利を得ると大きうど。かゝ薪火鉢りとく。此の立木と買とく。
とて紙賣る。小りと利あり。とべくその下。あくとぞといふとく。
僅よ三年あまうが極よ。数百金乃む。死く。やく死人。又いぶ漸く
田舎成り。せくらひく。活業の為。もう一死地方と彼此とえても少く。
園の小川の堰橋へ東山道の咽喉。し。稻葉少之をくり。京兼倉乃伝
路。かく。あそ彼れハ水遙々く。木と挽入する。小役とあり。とく。西八橋
改め移候。かく。薪をつめく。膏うけ。五間四面の材木店。残。うふすを

くる里うち。ばとく。白木の木の字の点を省。たゞ。家兼白木屋と唱つ。
両三ノの小廄を使ひて。圓守の所要をうけ。おの。京兼倉。とばさうき。
浪華。江海の浦。までも。買賣せどと。りと。やり。バ。人。まう。諸平。富
多。速。なう。驚嘆。その高運と美次なり。さらと。諸平。心。ざる。吝嗇
り。り。り。う。と。貪るのと。ゆく。散。と。なく。早々の服。す。も。小廄。お。が
腹。少。満。せ。ど。只。責。使。と。使。ひ。足。と。移。る。移。ば。み。ぐ。う。木。紙。ひ。死。車。戒。推。去
冬。の。玄。紀。朝。も。汗。死。流。と。日。戒。暮。と。紙。い。と。鳴。呼。こ。と。笑。ひ。ま。う。
こ。の。と。ま。で。も。女。房。四。へ。半。身。竟。よ。利。と。く。凡。三百。六十。日。うち。と。て。の。ミ
あり。とり。じ。ど。諸。太。郎。へ。そ。や。九。才。又。な。り。わ。く。そ。の。性。殊。不。解。と。く。
果。敢。と。あ。か。り。の。と。え。り。う。ど。諸。平。へ。只。官。利。の。あ。よ。小。廄。出。責。使。と。
子。代。變。と。る。の。と。人。よ。す。と。教。よ。と。と。然。る。あ。う。ど。渠。が。隨。意。養。ま。

多病うるひとり子の後裔。恩やうむ。聞へもがきとよどむ人の事。ま
又一人の費ありとく。そぶます。黙止つ。有一日諸平の黄金泥こねにせれいかくこすま墓の
里えぬ圓願寺の林原ともる様す。どうぞば年才七うる田舎見の長安ながやす。の寧ま
くるよや。夜やよどを破れ坂おあ。あひ日うちもる菅笠すみかさ。同わ二人とすらしすま。
伴侶ともだちと名ふ人となく。ひとう街道あいだ。松の株のきと尻しりとけく。法華ほけと泣なぐく。
諸平の性懶貪まく。へと憐むりのう。因縁追いんえんとどやあつま。
あらざき。そのわざり人立たてよりく。小文こもよ体たいも行ゆれのゆそ。行ゆく。むと
達たつくや。伴侶ともだちと後あとき途と迷めぐひく。かわそとすよ宿すくやあらへん。猿故さるごをせ
よ。志しば一ひと同ともく。國紙くに持もひ。こゑふ。元末伴侶ともだちもく。むとく。族くみをせ
年とし四五才さいの春はるの比別ひべつと。又當圓とうげん。福善ふくぜん。山さん。あほ。豫よて使つかひの信しんをまづ。
えんまく。わよもく。と。あら猿さるがすく。下くだり。ゆう景けいの山さん。東ひがく坊ぼう。ばふを
黄泉こうせんの客きとなり。と。十七年じゅうしあん秋あき。死しりと。かく。特とくが先さきひく。舊里むかり
らき。形かたちふのようよみ。近ちかい。やとある。人ひとは。進退既じき。究くわア。て。往むか
來きかよ。と。がく。と。や。と。ゆ。う。この小醫子こいやしが面おもて鬼き騙だます。と。ど。そ。る。り。の。す。ハ。あ。ら。ご。を。く
あく。今いまえ。よ。お。と。か。外ほかう。と。く。べ。と。宿すく。住すま。使つか。人ひとを。か。ま。給まわ。と。と。そ。る。よ。及および。ば。後あとて。ま。く。ぐ。と。と。き。よ。益ます。あ。り。と。く
ゆ。ろ。な。く。よ。と。わ。と。拾あつひ。よ。け。り。と。胸むね。よ。ま。ぐ。と。籌盤しゅはんの玉たま。よ。で。彈はじ
と。く。圓紙えんしを。ば。う。た。年とし少すくなく。かく。ま。ぐ。よ。孝心こうじん。う。じ。人の。凋落とうらく。が。就すす
あ。ら。と。と。か。が。う。ん。と。と。へ。園いんの。小川おがわ。よ。く。白木屋しらぎや。諸平。あ。ま。う。木素木もくそくと
買賣かいばい。と。う。よ。世交せいこう。ゆ。の。後あと。が。前まへ。命めい城じゆ。あ。う。と。じ。あ。ま。り。放ほうひ
と。う。く。ゆ。き。せん。ご。と。く。莫まく大だいの。恩おん。ま。く。バ。い。よ。み。と。及およ。す。ど。主ぬしの。な。ゆ。骨ほねと

惜ぐ生涯と云ふ仕人や。你が又へつるむのを汝が名へ行とゆきて居ると
同へす。やへ候とぞ。かくまでよ懲りた人ともあらず。モ值偶せ。ハ不幸の
幸。物數少へ足らず。どとと小廝とす。すくゆつて。バ才と牛馬。アシモ多
らすと竭。と仕ざとんや。抑僕ハ謀奴が一子よ名城謀叛とゆきあり。
又謀奴ハ多は村よりひそかに莊客うつとどと卑損水損よ家衰(果)も
とべる。此里の債奴。僕ふるよとひく。些の由縁とゆふ。ふきく弟孺
おむね。今之の園主の御内なる。苦月と。奴隸となりぬ。と風の便すふと云
候え。後ハ音耗ふ。とあすてに人よ寄くるのを母をもあらず。父とも
居らず。年十二の比より。父。養父。安否紙同む。とあいざる日も
うきと。戦世ハ彼此。闇の頃。の間。旗もろと。とてう。又住せざ。
母少ニツのと。後。今之の田ハ母の嫁。ふるあらわ。叔母。なまく。ふ
草をとめと。まよひ。只。下。まじりよ。是よ。あらん。と。ひ決。く。舊里。なまく。ま
材。孤。遠電し。百里。よあす。道。そぐ。戦場。死。も。日。流矢。よ。膽。残。冷。山。林。を
渝る。日。山。豪。よ。去。と。百折千磨の艱苦。試。凌。だ。く。稻葉山。へ。來。く。と。べ。
又。ハ。天文。ち。ト。や。北。年。芦。月。の。家。斷。絶。可。し。守。と。金。紙。の。り。つ。舊。里。を。定
め。と。い。合。廢。林。の。も。と。り。ゆ。く。き。院。よ。新。り。さ。う。仇。人。ハ。定。く。な。う。移。る。と。く。被
某。申。が。而。あ。る。と。く。と。く。その。の。忽。地。捕。ら。き。い。ま。一。分明。う。ら。と。く。
穢。ま。へ。獄。舍。よ。身。ま。り。そ。の。み。休。ぬ。と。い。る。繋。り。彼。此。人。の。お。ざ。う。ふ。善。う。と
あ。う。敵。主。天。よ。叫。び。地。よ。叫。べ。と。外。よ。よ。ぐ。も。う。と。之。乃。墓。所。伏。さ。づ。ゆ。く
合。廢。よ。其。れ。よ。そ。の。宿。城。あ。う。つ。穗。く。既。誓。孤。判。ら。お。ち。現。の。善。報。と
昇。ん。と。お。ひ。く。合。廢。よ。う。こ。の。死。ま。と。投。く。舊。金。紙。告。ひ。
家。の。み。成。只。管。憑。候。ゆ。と。ど。保。人。な。ま。と。許。さ。ま。と。せ。ん。術。竭。と。身。往。

草をとめと。まよひ。只。下。まじりよ。是よ。あらん。と。ひ決。く。舊里。なまく。ま
材。孤。遠電し。百里。よあす。道。そぐ。戦場。死。も。日。流矢。よ。膽。残。冷。山。林。を
渝る。日。山。豪。よ。去。と。百折千磨の艱苦。試。凌。だ。く。稻葉山。へ。來。く。と。べ。
又。ハ。天文。ち。ト。や。北。年。芦。月。の。家。斷。絶。可。し。守。と。金。紙。の。り。つ。舊。里。を。定
め。と。い。合。廢。林。の。も。と。り。ゆ。く。き。院。よ。新。り。さ。う。仇。人。ハ。定。く。な。う。移。る。と。く。被
某。申。が。而。あ。る。と。く。と。く。その。の。忽。地。捕。ら。き。い。ま。一。分明。う。ら。と。く。
穢。ま。へ。獄。舍。よ。身。ま。り。そ。の。み。休。ぬ。と。い。る。繋。り。彼。此。人。の。お。ざ。う。ふ。善。う。と
あ。う。敵。主。天。よ。叫。び。地。よ。叫。べ。と。外。よ。よ。ぐ。も。う。と。之。乃。墓。所。伏。さ。づ。ゆ。く
合。廢。よ。其。れ。よ。そ。の。宿。城。あ。う。つ。穗。く。既。誓。孤。判。ら。お。ち。現。の。善。報。と
昇。ん。と。お。ひ。く。合。廢。よ。う。こ。の。死。ま。と。投。く。舊。金。紙。告。ひ。
家。の。み。成。只。管。憑。候。ゆ。と。ど。保。人。な。ま。と。許。さ。ま。と。せ。ん。術。竭。と。身。往。

方と定め多きる折りかう。檢せあはづかる。産母よすを利益むれいと
も。と毛紙あへ。讐言ともちく。伏拜ひ誠もろとも腹うちを諸平のせに
二つ、毎よ。針ひて脣と刺す。ふくらむに奴よ權見く。まうまに下絨し
つるみ。と悔く。おふじが急死の。見く。病をぬせど。又くとありふ事。む
りき。一旦の慾よ起ひ。裸々紙うち殺し。その金紙とりとく。山洪波よ
推す。すがりとく。一枚もあらむ著ぞ。今ゆくなく渠が子。この丸よ權見
く。その困窮を救へんとひそむ。追きぬ因縁うるべ。金紙失ひ妻を寝
む。女児と指く。又今の女房因が難病。故ありぬべく。心より。朝うらの念仏を
被襟ぬが。あよと。今又その子を救ひ。うぶ罪障も消滅せんと。よ
すを功德へあし。とおひくべく嘆息。いと哀きがゆがゆ。審よ受けが
痛く。とおひく。うき。園の小川へ
ゆく。恩とうくみの櫻橋下ゆく水よ壁する人の往來定ゆる。裸松が
亡母へ。時頼藝の妾うけたまつ。小頼藝武威衰く。美濃の守護職を齋
藤道三よ棄き。富田よ閑居をすこら。裸松が母へ。身の暇とあらそ。
その妹芥ひろた。呼號よつて下總かる。木口村へ。転てつ。裸松が妻ふう。
僅よ二百日ふく。裸松紙産へ。裸松が母へ。身の暇とあらそ。
時數の薙刈り。と。身のとあら。妻ふをぬつて。足隠する。身の
塵よ。と。身のとあら。妻ふをぬつて。足隠する。身の
裸ぬ。寝幕の衰よ。三年といふ夏のち。うち。裸松が母へ。身の暇とあらそ。
後く。また。身のとあら。妻ふをぬつて。足隠する。身の
より。田園よ損か。立ぐもあらず。ざと。裸松が妻ふを。田めぐく。女
房が故郷。美濃國へ。おと。後よ。世えも。道三よ立ぐ。て。かあ。とあらそ。

由縁の人も憑てくと。己と紙浴びてく。芦月一角が奴隸よりくと。此の年未の一角ハ尾花才作より。その家お絶し。裸みハ合宿ゆく。諸平が内ノ金戒隠し。十餘年狂狹。まことに今戰諸國よ止どれうけと。蕉壇かて走り。うきりた。さとび裸松ハ幼稚。そのひざ。車うち。ぞ。居心も又人よ。また。や東西代あるところより。亡母のあよ香花と絶えど。美濃うるえを墓へ。ごと。継母翁へ娘よ似。極めて。淫婦。うよ。ゆう。ぬ良人。と悪。そと。もつゞ。近郷の破落戸。う。丈八といふ。壯俊と密通。年う。不幼弱。裸松を情す。罵。使ひ。と。終。骨肉の娘がひなむじき。と。裸松へ。と。孤。う。よ。そと。只。その。行状の。人。う。ぬ。孤。うち。數くの。を。き。あ。を。歩。き。ど。患苦の中。よ。生育。年。う。三。五。の。上。よ。生。ま。ぐ。翁。へ。い。よ。く。忌。嫌。ひ。そ。外。男。死。の。よ。裸。孤。裸。せ。打。擲。もうと。大き。う。ね。裸。松。ひ。の。呵。責。よ。泊。宿。ど。が。乃。薦。命。戒。斂。た。ぼ。



てとどもあず。母の心事不憎をあふへばと情由あると承り候。人より告ぐともひかふ故アヌベ。トヨモ一志アラゴロヌアム。シテ、私どモニ三の年より養育セテ、生キテ。娘の序巻紙ひそひ立ヅル。トヨモバトモ明ニ地ニ神モともかくアハ福ガ。トヨモヤロドコソの甲斐ヌ。今ハモヤ人トヤリヌ。トヨモ美濃ハ勤マク。久の安否を問ガズ。ソノ大さう不考ヘと只顧ヨ。ちゆりし決めて。一封の迷書よ。カツナリ。紙出で。手口を逐電。あがうう。トヨモガ。その上。下。城テラモ。といふと。なまく。緯モ。親の為。うき。が。皇天。その孝。孤。監。ミ。神明。ヒキ。紙。償。モ。や。あ。ト。モ。レ。ム。仇人の家。ヨ。方。を。投。ゼ。ト。モ。不思議。キ。

美濃舊衣ハ丈縫詩卷之二



